


JIS

船用鍛鋼100K圧力計弁

 JIS F 7341 -1996
(2002 確認)

平成8年11月8日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主 務 大 臣：運輸大臣 制定：昭和 30.10.24 改正：平成 8.11.8

官 報 公 示：平成 8.11.21

原案作成協力者：財団法人 日本船舶標準協会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 船舶部会（部会長 齋藤 隆一郎）

この規格についての意見又は質問は、運輸省海上技術安全局技術課（〒100 東京都千代田区霞が関2丁目1-3）又は工業技術院標準部機械規格課（〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。



船用鍛鋼100K圧力計弁

F 7341-1996

Shipbuilding—Forged steel 100K pressure gauge valves

1. 適用範囲 この規格は、船の蒸気管系、空気管系、燃料油及び潤滑油管系、清水及び給水管系などの圧力計に使用する鍛鋼100K圧力計弁(以下、圧力計弁という。)について規定する。

備考 この規格の引用規格を次に示す。

- JIS B 0202 管用平行ねじ
- JIS B 0207 メートル細目ねじ
- JIS F 7102 船舶機関部管用ガスケット及びパッキン使用基準
- JIS F 7400 船用弁及びコックの検査通則
- JIS F 7440 船用銅管20Kろう付ユニオン
- JIS F 7442 船用鋼管40K溶接ユニオン
- JIS G 3201 炭素鋼鍛鋼品
- JIS G 4051 機械構造用炭素鋼鋼材
- JIS G 4303 ステンレス鋼棒
- JIS G 4305 冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
- JIS G 4801 ばね鋼鋼材
- JIS G 5501 ねずみ鋳鉄品
- JIS H 3250 銅及び銅合金棒
- JIS H 3260 銅及び銅合金線
- JIS H 5101 黄銅鋳物

2. 最高使用圧力 圧力計弁の最高使用圧力は、10.0 MPaとする。

3. 種類 圧力計弁の種類は、圧力計接続部のねじの呼びによって表1のとおりとする。

表1

種類		圧力計接続部のねじの呼び	配管接続部
$\frac{3}{8}$ 形	C	PF $\frac{3}{8}$	銅管用ニップル
	S		鋼管用ニップル
$\frac{1}{2}$ 形	C	PF $\frac{1}{2}$	銅管用ニップル
	S		鋼管用ニップル

4. 構造、形状及び寸法 圧力計弁の構造、形状及び寸法は付図1のとおりとし、接続ナットを取り替えると、ねじ部がPF $\frac{3}{8}$ 、PF $\frac{1}{2}$ のいずれの圧力計にも使用できる。

5. 材料 圧力計弁の材料は、次のとおりとする。

- (1) 弁箱、弁棒及びふたは、付図2のとおりとする。
- (2) その他の材料は、原則として付図2による。

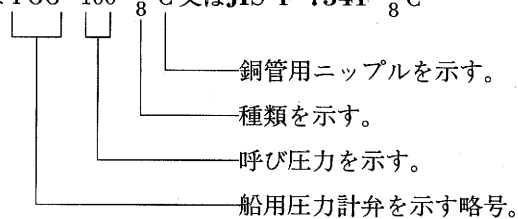
6. 検査 圧力計弁の検査は、JIS F 7400の規定によって、次の(1)～(5)について行う。

- (1) 材料検査
- (2) 外観検査
- (3) 寸法検査
- (4) 組立検査
- (5) 水圧検査 次の試験圧力で行う。
 - (a) 弁座水漏れ検査 11.0 MPa
 - (b) 弁箱水圧検査 15.0 MPa

7. 製品の呼び方 圧力計弁の呼び方は、名称及び種類又はその略号による。ただし、名称の代わりに規格番号を用いてもよい。

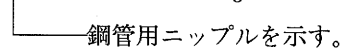
例1. $\frac{3}{8}$ 形で銅管用ニップル付きのもの

船用鍛鋼100K- $\frac{3}{8}$ 圧力計弁銅管用ニップル若しくは FGG 100- $\frac{3}{8}$ C 又は JIS F 7341- $\frac{3}{8}$ C



例2. $\frac{3}{8}$ 形で銅管用ニップル付きのもの

船用鍛鋼100K- $\frac{3}{8}$ 圧力計弁銅管用ニップル若しくは FGG100- $\frac{3}{8}$ S 又は JIS F 7341- $\frac{3}{8}$ S

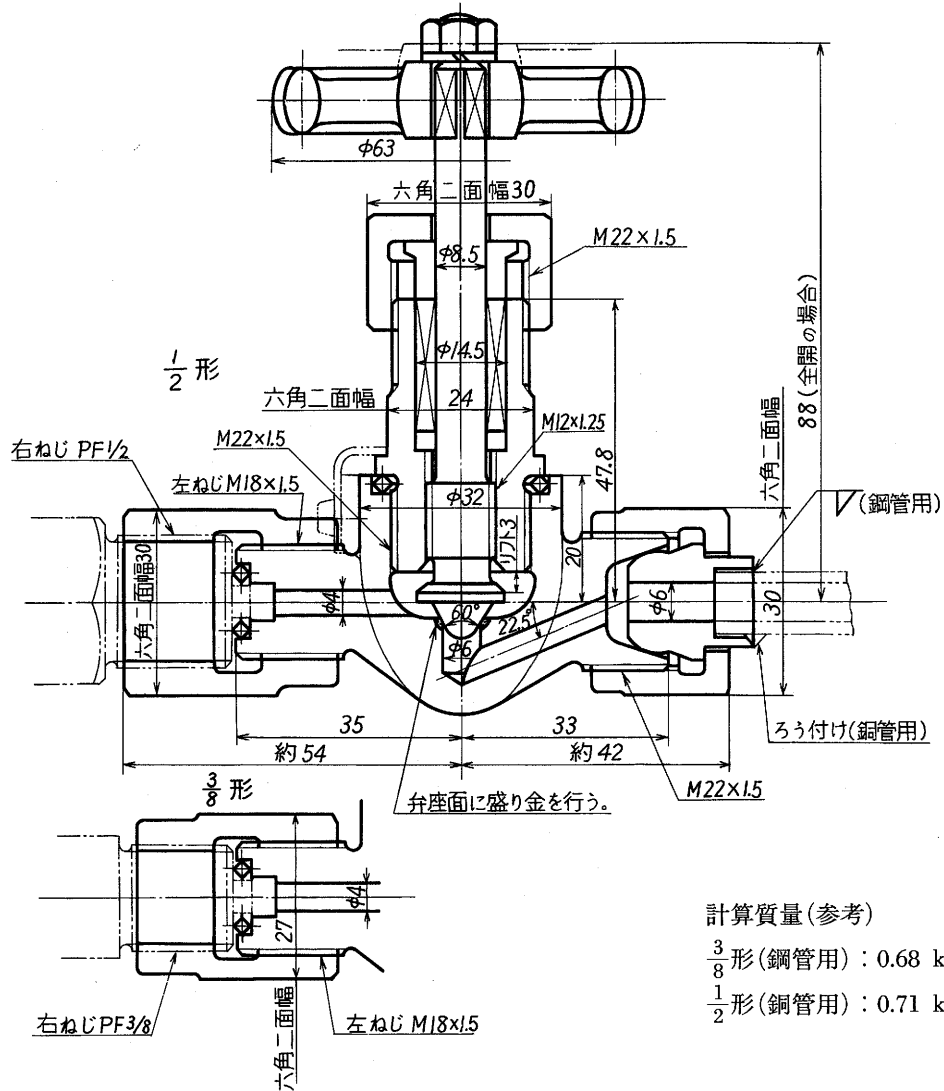


8. 表示 弁箱の表面に、次の事項を表示する。

- (1) 呼び圧力 100K
- (2) 製造業者名又はその略号
- (3) 製造年月又はその略号

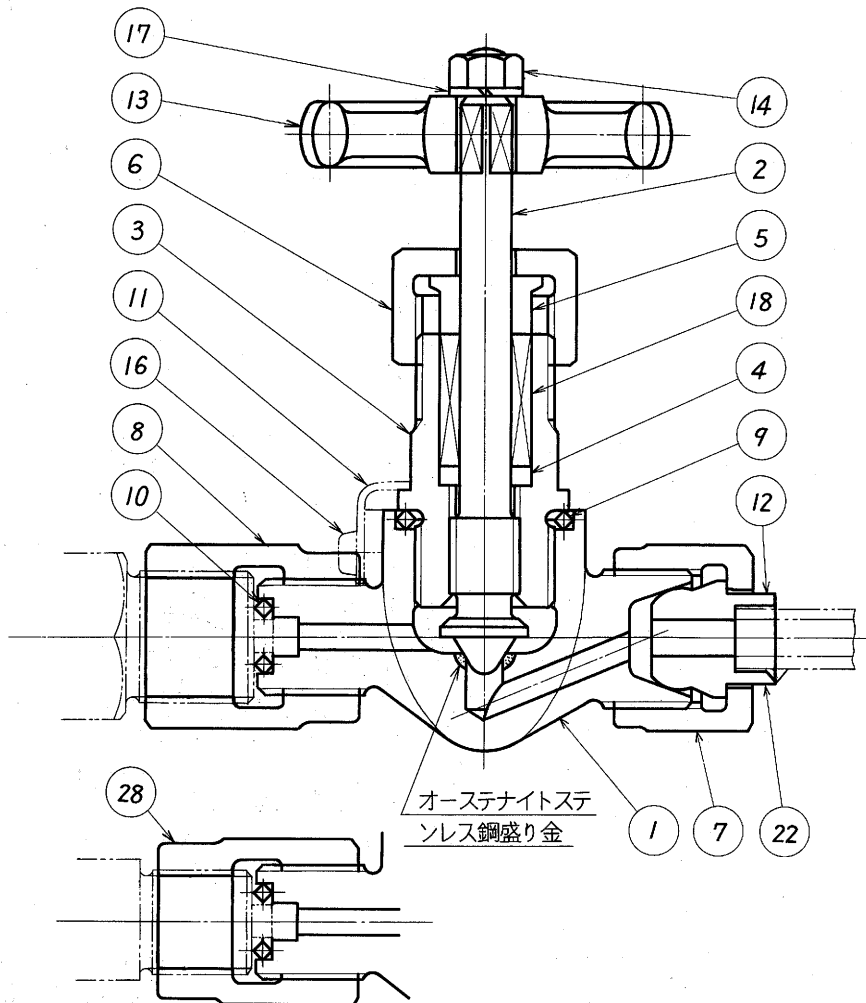
付図1

単位 mm



- 備考1. 弁箱, 弁棒及びびふたのねじは, JIS B 0207の規定による。
2. 接続ナットのねじは, JIS B 0202の規定による。
3. 銅管用ニップルはJIS F 7440, 鋼管用ニップルはJIS F 7442の規定による。

付図2



部品番号	部品名称	材料	部品番号	部品名称	材料
1	弁箱	JIS G 3201のSF440A又は JIS G 4051のS25C	11	ふた回り止め	JIS G 4305のSUS304
2	弁棒	JIS G 4303のSUS403	12	銅管用ニップル	JIS G 4051のS15C
3	ふた	JIS H 3250のC6782BD又は C6782BE	13	ハンドル車	JIS G 5501のFC200
4	パッキン受け輪	JIS H 3250のC3771BD	14	六角ナット	JIS H 3250のC3771BD
5	パッキン押さえ		16	十字穴付きなべ小ねじ	JIS H 3260のC2700W
6	パッキン押さえナット		17	ばね座金	JIS G 4801のSUP6
7	ニップル押さえナット		18	パッキン	JIS F 7102の規定による。
8	PF $\frac{1}{2}$ 接続ナット		22	銅管用ニップル	JIS H 5101のYBsC1又は JIS H 3250のC1100BD
9	ガスケット	JIS H 3250のC1100BD	28	PF $\frac{3}{8}$ 接続ナット	JIS H 3250のC3771BD
10	ガスケット				

備考1. 部品名称で太字のものの材料は、5.(1)に規定する材料を示す。

2. 部品番号13ハンドル車の材料は、注文者の指定によって銅合金にしてもよい。

3. JIS G 4051のS15C及びS25Cは、適切な熱処理を施さなければならない。

JIS F 7341-1996

船用鍛鋼100K圧力計弁 解説

この解説は、本体に規定した事柄及びこれに関連した事柄を説明するもので、規格の一部ではない。

1. 制定の目的 圧力100 kgf/cm²{9.81 MPa}以下の蒸気・空気・ガス・水・油などの圧力計に広く用いられる圧力計弁は、従来規格化したものがなく、多くの不便があったため、これの統一標準化と、船用として小形で確実なものの要望があつて、この高圧に対し確実な性能と標準化による製造費の低減、その他多くの利点を目的としてこの規格が制定された。

2. 制定・改正の経過及び改正の主旨

2.1 制定・改正の経過

制定・改正	原案作成団体又は会社	原案担当作業委員会	日本工業標準調査会 審議専門委員会	制定・改正年月日
1955年制定	三菱重工業株式会社 神戸造船所	社団法人 日本船舶工業標準 協会	船用弁専門委員会	昭和30年10月24日
1958年改正	—	同上	同上	昭和33年8月29日
1968年改正	—	社団法人 日本造船研究協会	同上	昭和43年4月1日
1976年改正	—	財団法人 船舶JIS協会 機関部会	船用高圧弁専門委員会	昭和51年11月1日
1979年改正	財団法人 日本船舶標準協会	—	同上	昭和54年11月1日
1988年改正	財団法人 日本船舶標準協会	財団法人 日本船舶標準協会 機関部会 配管ぎ装品委員会 (委員長 江口 嘉昌)	船舶部会 (専門委員会審議は省略)	昭和63年1月5日
1996年 (今回)改正	同上	—	同上	平成8年11月8日

2.2 改正の要旨

2.2.1 1958年改正 工業標準化法による3年目の見直し審議が行われ、使用実績による再検討と品質向上の要望、規格票体裁の変化などが考慮されて、次の改正が行われた。

- (1) **弁箱弁座** 従来の弁座は、弁箱内部のたなをそのまま加工して形成されたが、弁箱弁座にオーステナイトステンレス鋼の盛り金を行うことに改めた。
これは弁座を腐食から保護し、品質向上のためで、制定時に予想したことが実現された。
- (2) **ハンドル車** ハンドル車の径65 mmを63 mmに改めた。これは新たに制定されたJIS B 2601(ハンドル車)の径に合わせたものである。
- (3) **丸小ねじ** 従来の“丸小ねじ”を“十字穴付き丸小ねじ”に改めた。
- (4) 銅管用ニップルは、JIS F 7440(船用銅管20 kgf/cm²ろう付ユニオン)、鋼管用ニップルは、JIS F 7442(船用鋼管40 kgf/cm²溶接ユニオン)のニップルによることを規定した。

- (5) **検査** 検査は、従来、各項について規定されていたが、**JIS F 7400**(船用弁及びコックの検査通則)の規定によって行うことに改めた。これは、**JIS**に新しく船用弁及びコックの検査通則が制定されたので、これを適用するためである。
- (6) **材料** 使用実績に基づき、引用材料規格を次のとおり改めた。
- (a) ⑨ふたパッキン輪及び⑩接続パッキン輪の材料の引用規格**JIS H 3401**(銅棒)のCuB-0は、CuB1-0に改めた。
- (b) ⑪ふた回り止めの材料の引用規格**JIS H 3201**(黄銅板)のBsP1-0は、**JIS G 4301**(ステンレス鋼)のSUS1Pに改めた。
- (c) ⑫鋼管用ニップルの材料の引用規格**JIS G 3101**(一般構造用圧延鋼材)のSS41は、**JIS G 3102**(機械構造用炭素鋼)のS15C又は**JIS G 3101**のSS34に改めた。
- (d) ⑬丸小ねじの材料の引用規格**JIS H 3423**[鍛造用黄銅棒(火延用黄銅棒)]のBsBFは、⑭十字穴付き丸小ねじ**JIS H 3521**(黄銅線)のBsW2Sに改めた。
- (e) ⑮弁棒パッキンの材料“ひも”は、**JIS F 7102**(船舶機関部管系用パッキン使用標準)によることに改めた。
- (f) ⑯銅管用ニップルの材料の引用規格**JIS H 5101**(黄銅鑄物)のBsC1は、**JIS H 5101**のBsC1又は**JIS H 3401**(銅棒)のCuB1-0に改めた。
- (7) **インチねじのインチ表示の廃止** メートル法の完全実施に伴い、インチ表示を廃止することになり、接続部ねじ呼び径 $\frac{1}{8}$ in, $\frac{1}{2}$ inは、PS $\frac{3}{8}$, PS $\frac{1}{2}$ に改め、弁棒ねじ($\frac{7}{16}$ "は、弁棒ねじ(W $\frac{7}{16}$)に改めた。

2.2.2 1968年改正 見直し審議に当たって、ISOメートルねじの採用及び使用実績による再検討と品質向上の要望などが考慮されて、次の改正が行われた。

- (1) **最高使用圧力** 従来、最高使用圧力は100 kgf/cm²であったが、外国の1500 lb/in²弁に対応して使用できるようにしたいとの意見があり、このバルブは設計段階において200 kgf/cm²弁として設計されたものであって、性能上問題はないので、最高使用圧力を1500 lb/in²相当圧力の106 kgf/cm²に改めた。
- (2) **弁箱水圧検査** 最高使用圧力の改正に伴い、弁箱水圧試験圧力200 kgf/cm²を、212 kgf/cm²に改めた。
- (3) **形状及び寸法**
- (a) ⑥パッキン押さえナット及び⑧ $\frac{1}{2}$ 接続ナットの六角二面幅29 mmを30 mmに、③ふたの六角二面幅23 mmを24 mmにそれぞれ改めた。
これは、**JIS B 1002**(二面幅の寸法)の改正に伴い、合わせたものである。
- (b) ⑧ $\frac{1}{2}$ 接続ナットのねじは、引用規格の改正に伴い、**JIS B 0203**(管用ねじ)のPS $\frac{1}{2}$ は、**JIS B 0202**(管用平行ねじ)のPF $\frac{1}{2}$ に改めた。
- (c) ⑯ $\frac{3}{8}$ 接続ナットのねじ**JIS B 0203**のPS $\frac{3}{8}$ は、**JIS B 0202**のPF $\frac{3}{8}$ に改めた。
- (4) **メートルねじの採用** **JIS**からウィットねじが廃止されて、メートルねじだけとなったため、次のとおり改めた。
- (a) ①弁箱、③ふた及び⑥パッキン押さえナットのねじ**JIS B 0208**(インチ細目系ねじ)のW22山14は、**JIS B 0207**(メートル細目ねじ)のM22×1.5に改めた。
- (b) ②弁棒のねじ**JIS B 0206**(インチ並目ねじ)のW $\frac{7}{16}$ は、**JIS B 0207**(メートル細目ねじ)のM12×1.25に改めた。
- (c) ①弁箱と⑦ニップル押さえナットのねじ**JIS B 0208**のW22山14は、**JIS B 0207**のM22×1.5に改めた。
- (d) ①弁箱と⑧ $\frac{1}{2}$ 接続ナットの左ねじ**JIS B 0208**のW18山16は、**JIS B 0207**のM18×1.5に改めた。
- (5) **材料** 使用実績による材料の見直し及び引用材料規格の改正に伴って、次のとおり材料を改めた。
- (a) ①弁箱の材料の引用規格**JIS G 3201**(炭素鋼鍛鋼品)のSF45は、**JIS G 3201**のSF45又は**JIS G 4051**(機械構造用炭素鋼鋼材)のS25Cとし、新たにS25Cを追加した。

- (b) ②弁棒の材料の引用規格**JIS G 4301**(ステンレス鋼)のSUS2は、**JIS G 4303**(ステンレス鋼棒)のSUS50Bに改めた。
- (c) ④パッキン受け輪、⑤パッキン押さえ、⑥パッキン押さえナット、⑦ニップル押さえナット、⑧PF¹/₂接続ナット、⑭六角ナット及び⑳PF³/₈接続ナットの引用規格**JIS H 3423**[鍛造用黄銅棒(火延用黄銅棒)]のBsBFは、**JIS H 3423**(鍛造用黄銅棒)のBsBF2に改めた。
- (d) ⑪ふた回り止めの材料の引用規格**JIS G 4301**(ステンレス鋼)のSUS1Pは、**JIS G 4305**(冷間圧延ステンレス鋼板)のSUS27CPに改めた。
- (e) ⑫鋼管用ニップルの材料の引用規格**JIS G 3102**(機械構造用炭素鋼)のS15C又は**JIS G 3101**(一般構造用圧延鋼材)のSS34は、**JIS G 4051**(機械構造用炭素鋼鋼材)のS15Cに改めた。
- (f) ⑬ハンドル車の材料の引用規格**JIS G 5501**(ねずみ鋳鉄品)のFC15又は**JIS H 5111**(青銅鋳物)のBC2は、**JIS G 5501**のFC20に改めた。

2.2.3 1976年改正 1960年の国際度量衡総会(CGPM)の決議によって国際単位系(SI単位)が採択され、国際規格(ISO及びIEC)のSI単位採用など最近の世界的なSI単位採用の動向に合わせて、日本でも昭和49年4月から、**JIS Z 8203**[国際単位系(SI)及びその使い方]に規定する国際単位系(SI)を日本工業規格に採用することになった。国際単位系でない従来の重力単位系はSI単位に切り替えられ、将来は**JIS**から廃止されることになるが、SI単位採用の第一段階として、国際単位系でない単位による数値の後に、国際単位系による数値を{ }書きで参考として併記することとした。

主な改正点は、次のとおりである。

- (1) **規格名称** 従来、圧力計弁は、**JIS F 7341**(船用鍛鋼100K圧力計玉形弁)と**JIS F 7342**(船用鍛鋼100K圧力計アングル弁)として、玉形弁及びアングル弁の規格が制定されていたが、使用実績調査を行ったところアングル弁は使用されていないため、1968年に廃止された。したがって、今回、規格名称を**JIS F 7341**(船用鍛鋼100K圧力計弁)に改めた。
- (2) **材料** 付図2の部品の引用材料規格の改正に伴って、次のとおり改正した。
 - (a) ②弁棒の引用規格**JIS G 4303**(ステンレス鋼棒)のSUS50Bは、SUS403に改めた。
 - (b) ③ふたの引用規格**JIS H 3425**(高力黄銅棒)のHBsB2は、HBsBD2又はHBsBE2に改めた。
 - (c) ④パッキン受け輪、⑤パッキン押さえ、⑥パッキン押さえナット、⑦ニップル押さえナット、⑧PF¹/₂接続ナット、⑭六角ナット及び⑳PF³/₈接続ナットの引用規格**JIS H 3423**(鍛造用黄銅棒)のBsBF2は、BsBFD2に改めた。
 - (d) ⑨ガスケット、⑩ガスケット及び㉑銅管用ニップルの引用規格**JIS H 3401**(銅棒)のCuB1-0は、**JIS H 3405**(タフピッチ銅棒)のTCuBD1-0に改めた。
 - (e) ⑪ふた回り止めの引用規格**JIS G 4305**(冷間圧延ステンレス鋼板)のSUS27CPは、SUS304に改めた。
- (3) **国際単位系(SI)の採用** 2.最高使用圧力及び6.(5)水圧検査の圧力の単位kg/cm²は、kgf/cm²{MPa}とSI単位を併記することとし、最高使用圧力106 kg/cm²を106 kgf/cm²{10.40 MPa}に、弁座水漏れ試験圧力110 kg/cm²を110 kgf/cm²{10.80 MPa}に、弁箱水圧検査212 kg/cm²を212 kgf/cm²{20.80 MPa}にそれぞれ改めた。
 なお、付図1の“計算重量”は、“計算質量”に改めた。
- (4) **その他** **JIS B 0001**(機械製図)の改正に伴う図面の寸法表記の訂正、規格票の様式及び字句の訂正を行った。

2.2.4 1979年改正 伸銅品**JIS**の改正に伴う改正を行った。

なお、規格票の様式及び字句の訂正を行った。

2.2.5 1988年改正

- (1) 単位及び数値を国際単位系(SI)とし、{ }を付けて従来単位及び数値を併記した。

なお、SIの導入(第2段階)に当たっては、フランジ、継手など他の配管系機器**JIS**との整合を図るため、換

算値方式を採用し、かつ、{ }内の数値は規格値とした。ただし、その期間は、SIが第3段階へ移行するなど前記整合の理由が解消されるまでの間とする。

(2) 水圧試験圧力をISO 5208 (Industrial valves—Pressure testing of valves)に基づき、水漏れ検査は最高使用圧力の1.1倍、水面計水圧検査は、最高使用圧力の1.5倍に改めた。

2.2.6 1996年(今回) SI単位の第3段階移行により、{ }内の数値と単位を削除した。新数値の採用により規定値が従来単位換算値より2%増加された。呼び圧力は従来どおりの呼びを採用した。最高使用圧力は強度的にも問題ない10.0 MPaとした。

3. 規格の概要及び要旨(1988年改正時) この規格は、最初、かじ取機械などの高圧油の場合も考え、圧力20 kgf/cm²{1.96 MPa}を超え200 kgf/cm²{19.61 MPa}以下に使用できる圧力計弁として設計されたものであるが、専門委員会において、呼び圧力200 Kとすると、水圧検査の圧力なども高圧となって、そのためバルブ製造費が高くなることは、普通60 kgf/cm²{5.88 MPa}以下に使用される場合が多いこのバルブは不経済である。そこで呼び圧力をいくらに定めるか種々検討した結果、製造費に影響を及ぼさない限度の高圧とすることに意見一致し、100 kgf/cm²{9.8 MPa}が適当であると決定し、呼び圧力、最高使用圧力ともに100 Kとして制定された。このようなわけで、周到的な製造と必要な検査とが相まつならば100 kgf/cm²{9.8 MPa}を超えた場合でも使用できるので、船用としてはこのバルブ1本でほとんどの圧力範囲に適用できるものである。その後、1968年に外国の1 500 lbf/in²弁に対応して使用できるようにするため、最高使用圧力を106 kgf/cm²に改正した。

なお、20 kgf/cm²{1.96 MPa}以下には、JIS F 7343(船用青銅20 kgf/cm²圧力計コック)を規定してあるが、20 kgf/cm²{1.96 MPa}以下でも必要な場合には、このバルブを用いてよい。

3.1 構造及び形状 このバルブは高圧に用いるが、高温流体には直接当たることがなく、かつ弁座の径は6 mmの小さなものであるため、型鍛造の弁箱にふたをねじ込み、弁・弁棒一体形、内ねじ式の簡単な構造とした。弁座はオーステナイトステンレス鋼の盛り金60度コニカルである。圧力計とバルブとの連結は、両端に左ねじ、右ねじを切った接続ナットで直接締め付けることとし、従来の接続金物と袋ナットを用いたものより簡単で小形・強力な形状とすることができた。

圧力計のねじ部は、管用平行ねじPF $\frac{3}{8}$ 、PF $\frac{1}{2}$ の2種類あるが、このいずれに対して接続ナットだけをこれに合わせて連結するようにし、その他の部品は同一のものとした。

また、1955年の規格制定当時は、玉形弁のほかに圧力計板に取り付けやすい形のアングル弁も制定し、これは弁箱だけが異なり、アングル弁には取付けナットが多いだけで、他の部品は玉形弁と全部同じものを使用できるようにしていたが、1968年にアングル弁は使用実績が少ないため廃止された。

他方、バルブと管との連結部はユニオン継手形とし、管外径10 mmの鋼管又は鋼管と溶接若しくはろう付けしたニップルによって気密を確保することにした。

3.2 材料 弁箱はJIS G 3201(炭素鋼鍛鋼品)のSF45又はJIS G 4051(機械構造用炭素鋼鋼材)のS25C、弁棒は、JIS G 4303(ステンレス鋼棒)のSUS403、ふたは、JIS H 3425(高力黄銅棒)のHBsBD2又はHBsBE2の規定材料とし、弁箱弁座面にはオーステナイトステンレス鋼の盛り金を行うほかは標準材料として付図に示してあるとおり普通一般の材料ばかりである。弁棒弁座面はブリネル硬さ300程度に熱処理することに製作図では指定されている。ふたの材料はHBsBD2又はHBsBE2であるので、弁箱へのねじ込み部、弁棒ねじとの接面において腐食・むしれ・強さなどに対し心配はない。ハンドル車の材料はJIS G 5501(ねずみ鋳鉄品)のFC20とし、装備上の美観その他必要によって銅合金を指定することができるようになっている。

3.3 バルブの種類と適用範囲 圧力計弁は、圧力計の接続部のねじによって、管用ねじPF $\frac{3}{8}$ の接続ナットをもつものと、PF $\frac{1}{2}$ 接続ナットをもつものの2種類に分かれる。船用としてはPF $\frac{1}{2}$ をもつものが比較的多い。そのほか、配管接続部の鋼管用ニップルが付くものと、銅管用ニップルが付くものとに細別される。最高使用圧力は、水・油・空

気に対し、 106 kgf/cm^2 { 10.40 MPa }とした。

蒸気に対し規定されていないのは、圧力計には直接蒸気及び高温流体が入らない装備とされているので、このバルブも直接蒸気に触れないからである。

したがって、バルブには、次の種類がある。

種類	接続部ねじの呼び (管用平行ねじ)	配管接続部適用ニップル
$\frac{3}{8}\text{C}$	PF $\frac{3}{8}$	銅管用ニップル
$\frac{3}{8}\text{S}$	PF $\frac{3}{8}$	鋼管用ニップル
$\frac{1}{2}\text{C}$	PF $\frac{1}{2}$	銅管用ニップル
$\frac{1}{2}\text{S}$	PF $\frac{1}{2}$	鋼管用ニップル

3.4 弁箱水圧及び水漏れ試験圧力 弁箱水圧試験圧力は、最高使用圧力の2倍の 212 kgf/cm^2 とし、弁座水漏れ試験圧力は、呼び圧力の10 %増しの 110 kgf/cm^2 { 10.80 MPa }と規定したが今回の改正で弁箱水圧試験圧力を 15.60 MPa { 159 kgf/cm^2 }、弁座水漏れ試験圧力を 11.44 MPa { 116.6 kgf/cm^2 }とした。

備考 一般に、中・低圧標準玉形弁及びアングル弁の弁箱水圧試験圧力は、普通呼び圧力の2倍である。

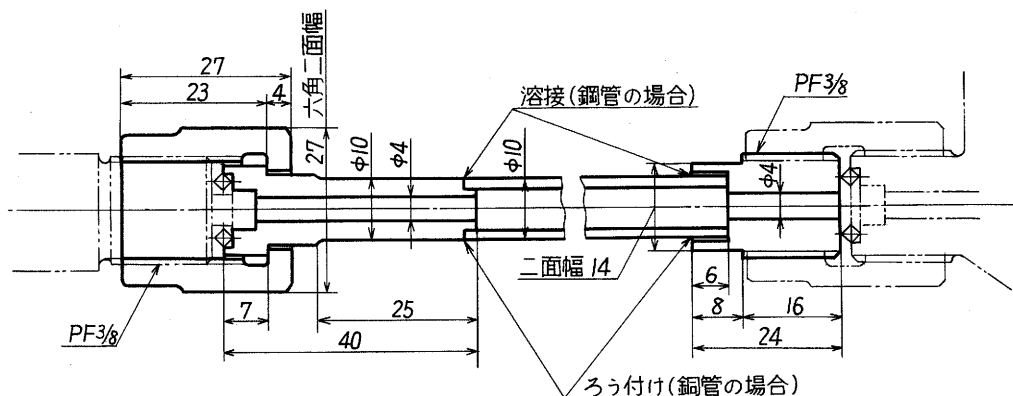
また、弁座水漏れ試験圧力は、呼び圧力より高い最高使用圧力(特に10 %増しが許される場合はその圧力)に 1 kgf/cm^2 { 0.98 MPa }増しとなっているが、制定当時、圧力計弁は、呼び圧力と最高使用圧力が同じであったため、上記のように呼び圧力の10 %増しとした。

4. 圧力計とバルブが離れた場合の接続方法 圧力計とバルブが離れた場合の接続方法は、解説図1に示す要領で、圧力計とバルブとの間に接続管を設ければよい。

解説図1 圧力計とバルブが離れた場合の接続方法

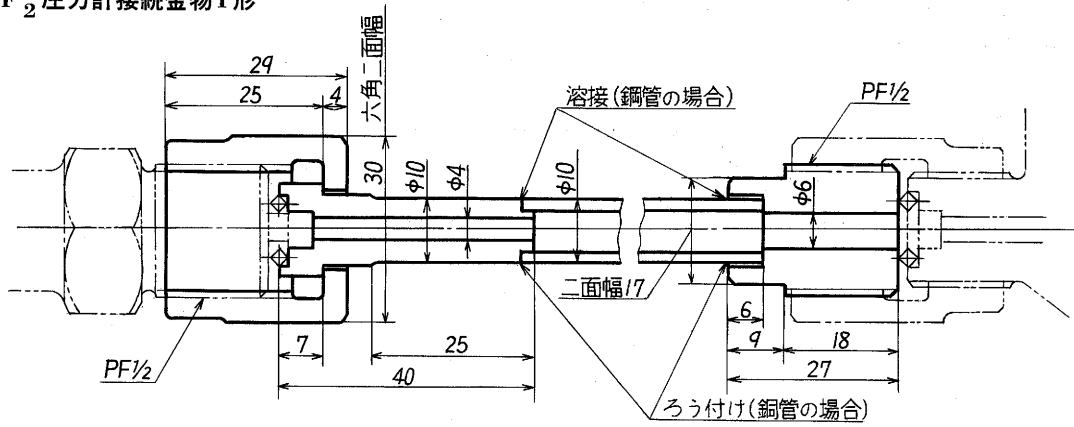
単位 mm

(1) PF $\frac{3}{8}$ 圧力計接続金物

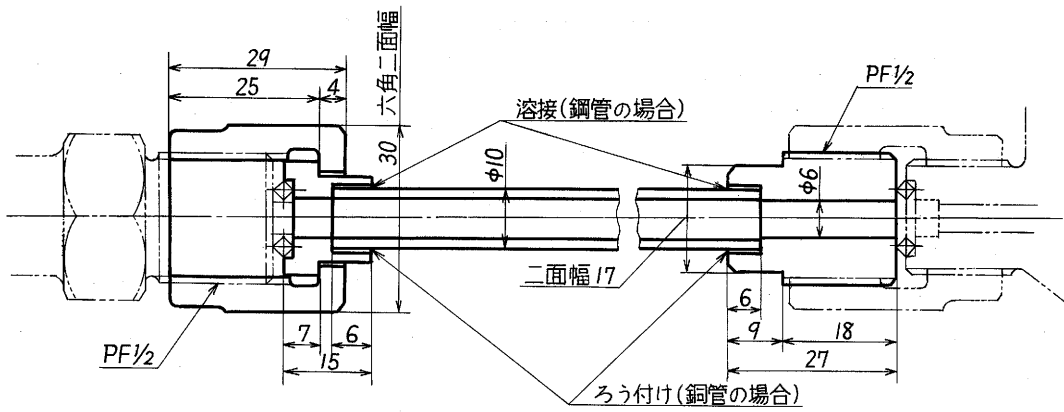


解説図1 (続き)

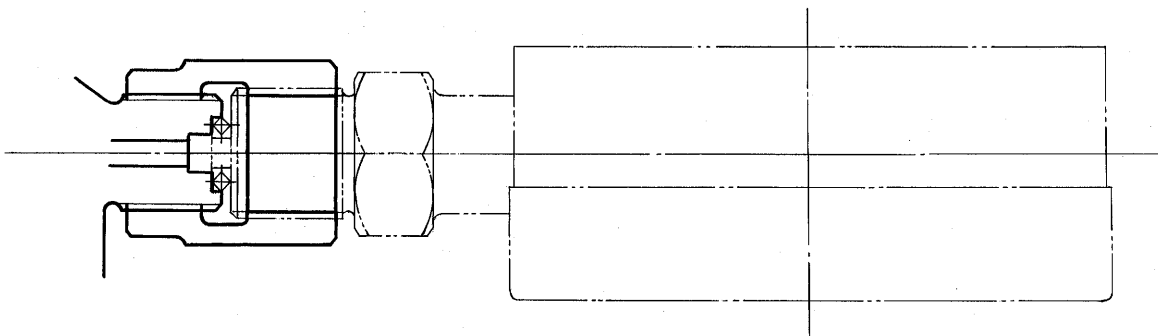
(2) PF $\frac{1}{2}$ 圧力計接続金物T形



(3) PF $\frac{1}{2}$ 圧力計接続金物S形



参考 圧力計とバルブが直接接続の場合



JIS規格票の正誤票が発行された場合は、下記の要領でご案内いたします。

- (1) 当協会発行の月刊誌“標準化ジャーナル”に、正・誤の内容を掲載いたします。
- (2) 毎月第3火曜日に、“日経産業新聞”及び“日刊工業新聞”のJIS発行の広告欄で、正誤票が発行されたJIS規格番号及び規格名称をお知らせいたします。

発行された正誤票をご希望の方は、下記(営業)へご連絡頂ければご送付いたします。

なお、当協会のJIS予約者の方には、予約された部門で発行された正誤票が自動的に送付されます。

日本工業規格

船用鍛鋼100K圧力計弁

定価 515 円
(本体 500 円)

平成 8 年 12 月 31 日 第 1 刷発行

編集兼
発行人 福原元一

発行所

財団法人 日本規格協会

〒107 東京都港区赤坂 4 丁目 1-24

電話 東京(03)3583-8071 (規格出版)

FAX 東京(03)3582-3372

電話 東京(03)3583-8002 (営業)

FAX 東京(03)3583-0462

振替口座 00160-2-195146

- 札幌支部 〒060 札幌市中央区北 3 条西 3 丁目 1 札幌大同生命ビル内
電話 札幌(011)261-0045 FAX 札幌(011)221-4020
振替: 02760-7-4351
- 東北支部 〒980 仙台市青葉区本町 3 丁目 5-22 宮城県管工事会館内
電話 仙台(022)227-8336 (代表) FAX 仙台(022)266-0905
振替: 02200-4-8166
- 名古屋支部 〒460 名古屋市中区栄 2 丁目 6-12 白川ビル内
電話 名古屋(052)221-8316 (代表) FAX 名古屋(052)203-4806
振替: 00800-2-23283
- 関西支部 〒541 大阪市中央区本町 3 丁目 4-10 本町野村ビル内
電話 大阪(06)261-8086(代表) FAX 大阪(06)261-9114
振替: 00910-2-2636
- 広島支部 〒730 広島市中区基町 5-44 広島商工会議所ビル内
電話 広島(082)221-7023,7035,7036 FAX 広島(082)223-7568
振替: 01340-9-9479
- 四国支部 〒760 高松市寿町 2 丁目 2-10 住友生命高松寿町ビル内
電話 高松(0878)21-7851 FAX 高松(0878)21-3261
振替: 01680-2-3359
- 福岡支部 〒810 福岡市中央区渡辺通り 2 丁目 1-82 電気ビル第 3 別館内
電話 福岡(092)761-4226 FAX 福岡(092)761-7466
振替: 01790-5-21632

日本ハイコム 株式会社 印刷・製本

Printed in Japan

JAPANESE INDUSTRIAL STANDARD

Shipbuilding—Forged steel 100K pressure gauge valves

Ⓜ JIS F 7341 -1996

Revised 1996-11-08

Investigated by

Japanese Industrial Standards Committee

Published by

Japanese Standards Association

1-24, Akasaka 4-chome, Minato-ku
Tokyo, 107 JAPAN

Printed in Japan

定価515円(本体500円)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。